

第三十六回

松山喜多流能

令和四年七月十日(日)午後一時始

松山市民会館小ホール能舞台



狂言
魚説経

古川喜朗

箆

金子龍晟

融

笏之舞

金子敬一郎

第三十六回松山喜多流能

解説 佐々木多門

能

金子龍晟

宝生欣哉 亀井広忠
曾和正博 杉信太郎

古川喜朗

地頭 中村邦生

箴

—— 休憩二十分 ——

狂言

魚説経

古川喜朗

古川道郎

—— 休憩十分 ——

能

金子敬一郎

宝生欣哉 亀井広忠 前川光長
曾和正博 杉信太郎

古川道郎

地頭 長島 茂

融

笏之舞

終了予定午後五時半ごろ

とき・令和4年7月10日(日)午後1時始
ところ・松山市民会館小ホール能舞台

箴(えびら)

九州から上京途中の旅僧が須磨の浦の生田川に着くと、色鮮やかに美しく咲いている梅の花を眺めている男に出会う。僧は男にこの梅の名前の由来を聞いた。男は、これは源平の合戦の源氏、若武者梶原源太景季がこの梅の枝を笠印のかわりに箴に挿して、手柄をたてたことから「箴の梅」と名付けたのだと言い、一ノ谷の合戦の様子を詳しく物語った。そして男は自分は梶原源太景季の霊だと名乗り消えていった。(中入)一夜の宿を探していた僧はこのことが気になり花蔭に臥して仮寝をする。すると僧の前に梶原源太景季の霊が、箴に梅の花を挿した若武者の姿で現れ、修羅の苦患を見せ、また生田の合戦で梅を箴に挿して戦った様子を再現し、僧に回向を頼んで夜明けの中に姿を消した。そして僧の夢が覚めた。

魚説経(うおぜつきょう)

大長刀を持った大酒飲みの乱暴者が僧に纏わりついて自分の常宿に連れ込み、腰を揉ませて眠ってしまふ。僧は乱暴者に仕返しをしてやろうと、長刀や小袖を取り上げ、代わりに自分の傘や僧衣を置いておく。目が覚めた乱暴者は自分が出家姿に変わったのは釈迦が化身となつて現れたのではと思ひ込み…

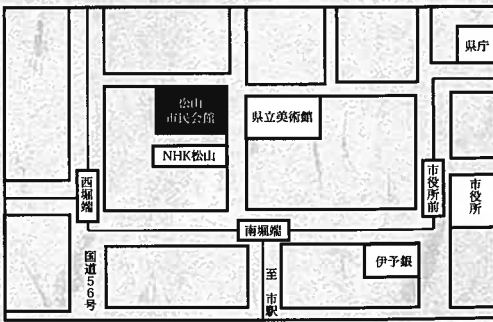
融 笏之舞(とおる しゃくのまい)

東国から都へ上つて来た旅僧が、六条河原院の廃虚で休んでいると、田子を担った一人の老人が現れる。この辺りの人かと問うと、この所の汐汲みだと答える。僧は、海辺でもない土地で、汐汲みとはおかしいのではという、老人は、ここは昔、源融が広大な邸宅を造り、庭に陸奥の塩釜の致景を移した所だと答える。そして、融公は毎日難波の浦から海水を運ばせ、塩を焼かせるという豪奢な風流を楽しんだが、その後は相続する人もなく荒れ果てている事を物語り、つづいて、ここから見たせる遠近の名所を教える。やがて汀に立ち寄って汐を汲むかと思つと、姿は消え失せる。(中入)僧は、丁度来合わせた六条辺の者から融大臣の事や当時の塩焼きの様子を聞く。先刻の老人の話をする、それは融公の化身であろうから、弔いをするよう勧められる。その夜、僧はそこで再び奇特を見たいものだ、旅寝をする。すると融の大臣が貴人の姿で現れ、昔を偲んで名月の下で舞をまい、夜明けと共に消えてゆく。

チケット問合せ先
〒790-0856 松山市南町2-2-12
TEL 089-931-6928(金子舞台)
E-Mail ticket@kita-kaneko.com
鑑賞券8,000円



会場 松山市民会館小ホール能舞台
愛媛県松山市堀之内 TEL 089-931-8181



主催 金子匡一後援会・愛媛喜多会
後援 愛媛県・愛媛県教育委員会
松山市・松山市教育委員会
愛媛新聞・南海放送株式会社
テレビ愛媛・あいテレビ
愛媛CATV・松山芸能文化協会
公益社団法人愛媛能楽協会
(以上 申請中)

無許可での録音・録画は固くお断りします。